

日本経済の現状と展望

早稲田大学ファイナンス総合研究所顧問
野口 悠紀雄

- *2014年は厳しい年になる
- *円安一服で輸出額がマイナスに
- *増えているのはマネタリーベース
- *円安はユーロ波乱収束の結果だった
- *日銀の真の狙いは金利の低め誘導
- *「国債の株式転化」のカラクリ
- *そして最終的に紙幣だけが残った
- *就業構造の劇的な変化の意味
- *米国と英国が脱製造業で成長続ける理由
- *世界で加速するグローバルゼーションの実像



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

今日は本当に久しぶりでございますが、野口悠紀雄先生においでいただきました。アベノミクスや、現在の金融政策にはたいへん批判的な御意見をお持ちでございますし、ここにいる皆さんも疑問に感じていることが多々あると思いますので、今日のお話でそういったこともある程度納得がいくかと思えます。それから、世の中の新しい流れ、今後のことについてもお話をただけだと思います。

皆さんの反応次第で、白板をお使いになって充実した講義が聞けると思いますが、どうか十分注意してお聞きいただきたいと思えます。それではよろしくお願いたします。（拍手）

野口 皆さんこんにちは。野口悠紀雄です。

本日、東洋経済定例講演会におきましてお話しできる機会をいただきましたこと、たいへんうれしく思っております。主催をしてくださりました経済倶楽部の皆様方に御礼申し上げます。

本日、これから14時20分までお話をいたします。そのうち私からのお話を70分間、つまり14時10分までいたしまして、その後、10分間ご質問を受けたいと思えます。

本日のテーマは「日本経済の現状と展望」となっております。皆様のお手元にこのような資料をお配りしてあると思えます。ほぼそれに沿ってお話いたしますので、適宜ご参照いただければと思います。

今日お話しいたします内容はレジュメに書いて